

COVID-19 と子ども達の

外出行動

調査レポート

Research Project Report
COVID-19 and Going out
activities of Children



コロナと外遊び エピソード集

インタビュー調査では、31の子育て世帯の方に
お話を聞かせていただきました。データでは表せ
ない経験や考え・思いについて、1世帯につきひ
とつずつエピソードを抽出し、エピソード集とし
て漫画で表現しました。

漫画は、同じく子育てをされている杵モチコさん
に制作していただきました。4コマ漫画形式とし、
最後の「オチ」についてはフィクションを交えて
表現しています。

エピソードを抽出していくと、いくつかの共通するテーマが見えてきました。以下のテーマに分けて掲載しています。

「外遊びのジレンマ」

「ソーシャルディスタンスと子どもの心」

「在宅のリアル」

「自宅での工夫」

「公園・施設の閉鎖」

「新たな遊び場の開拓」

「路地の価値」

「公園の価値」

様々な子育て世帯の経験や考えなどから、改めて子どもの外遊び環境のあり方について考えるきっかけになれば幸いです。

外遊びの ジレンマ

2000年に国内で初めて緊急事態宣言が発令されました。ステイホームが求められる中、子どもの外遊びについても家庭ごとに考えが異なっていました。それによって自分とは異なる考えに基づく他人の行動に不満を感じるような状況もみられました。「自粛警察」なる言葉も生まれました。

「何が正しいのか」分からない中、家庭ごとにジレンマを抱えながらも、指標やルールを決めながら、子どもの外遊びを行っていたことが分かりました。



緊急事態宣言中！

保育園は登園自粛



習い事は
プールも中止
空手も中止

いつもの公園に
行ってみるが：

公園に行くにも
マスクしっかりして
消毒もちゃんとね！

ええ〜
面倒くさいよ！

あっ！
知らないママたち
いっぱいいるね！



あのママたち
マスクしてない人も
いるね：
お菓子もみんな
食べてる…

うん…

僕たちは
マスクもして
消毒もして
いろいろガマン
してるのにな…

ああいう人たちから
コロナが広がる
のかもねえ…



公園も人が
多いから
おうちで遊ぼうー！

わーい！！！！
ジャングルジム
買ったんだー！！

おうちなら
マスクしなくても
いいもんねー！！

快適！！

うん…

マスクはなしでもいいけど
洋服はちゃんと着ようね…
パンツ一丁はちょっと…



ソーシャル

ディスタンスと

子どもの心

大きな生活様式の変化のひとつにマスクの着用があります。またソーシャルディスタンスに基づき人との距離を意識するようになりました。

また、新一年生は、入学時から休校となってしまうましたが、再開後も、休み時間の過ごし方、給食の食べ方にもこれまでとは違うルールが設けられています。必要なこととはいえ、こうした状況に傷つく子どもがいたり、子どもの心理に影響するのではないかと不安に感じる保護者も少なくなかったようです。





在宅のリアル

多くの家庭では、全面的にまた部分的に在宅勤務へと移行していった。また学校休校、保育園・幼稚園の休園・登園自粛の中で、自宅で育児をしながら仕事をするという状況に置かれた家庭も少なくありませんでした。

親としては仕事時間を十分に確保できず、子どもとしては、友達とも遊べず自由時間を持て余し、ストレスを感じていたという話は少なくありません。

そのような中、仕事の時間と子どもとの時間をどのようにして両立させていくか、試行覚悟していた様子が分かりました。





自宅での工夫

外出自粛が求められる中、多くの家庭で自宅内での遊びを充実させていた様子が分かりました。

体を動かせるような遊具を購入しながら、外遊びでの行為を自宅内で代替していた事例も多くみられました。

子どもが好きなもの、関心があるものを取り入れながら、なんとか子どもの心身の成長を支えようと工夫していた様子が分かりました。









公園・施設の閉鎖

2000年の緊急事態宣言中は、多くの公園で遊具の使用禁止の措置が取られ、一部では公園内の施設（駐車場、多目的広場など）が閉鎖されました。また、校庭開放や園庭開放も制限されました。

外遊びの場が制限されていく中、特定の公園（特に大規模な公園）に人が集中する横で、施設されたオープンスペースが存在するような矛盾した状況も生じました。

こうした行政や施設運営者の措置に対して、シワ寄せが子どもに行ってしまったのではないかと、といった疑問・不満を持つ家庭が多く存在していたことが分かりました。





緊急事態宣言中
公園遊具は……

都立公園は
一律遊具禁止!



区立公園は
対応が違う

お隣の区は
全て禁止だけど……

うちの区は
公園によつて
遊べるところも
あるよね……



いつもの公園に
来たけど
すごいことになってる!!
子供だらけ!!

なんでこんなに
混んでるんだ?!

たごぼぞぼー?

危ない!
ぶつかる!



分かったわ!
お隣の区から流れ込んで
きた子供たちよ!

ここお隣の区に
近いから……

あつちは遊具が
使えないから
こっちに来て
るんだな……

かえって密に
なっちゃうよ……

これじゃあ
逆効果だよね……



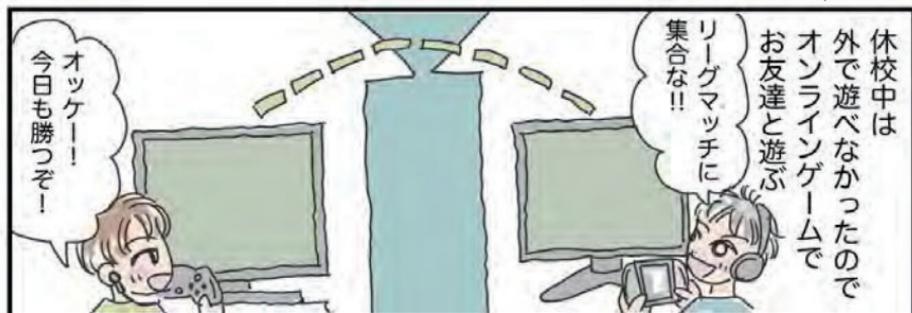


新たな遊び場の開拓

— 自然環境 —

緊急事態宣言中の外出自粛を終えた後、緊急事態宣言解除後に遠出をする家庭も多かったようです。特に、人混みを避けてキャンプや山・川などの自然環境に車で出かけ、リフレッシュしたという話も多く聞かれました。従来のような外出がままならないことから生まれた現象ですが、新しいライフスタイルとして根付きつつあります。





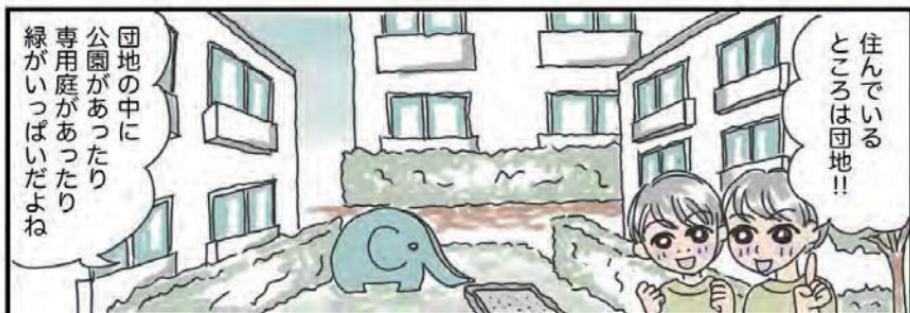


新たな遊び場の開拓

―団地・マンション駐車場編―

新たな遊び場の開拓は、身近にありながらこれまで気づいていなかった様々な場所でも展開されていました。

団地内の緑地が植物や虫の宝庫であることに気が付いたり、自宅マンションの駐車場・駐輪場を遊び場として活用したり、中には植え込みを菜園にリノベーションした事例もありました。自宅のすぐそばの「穴場」を発見しながら子ども遊び場を担保しようとしていた状況が見えてきました。







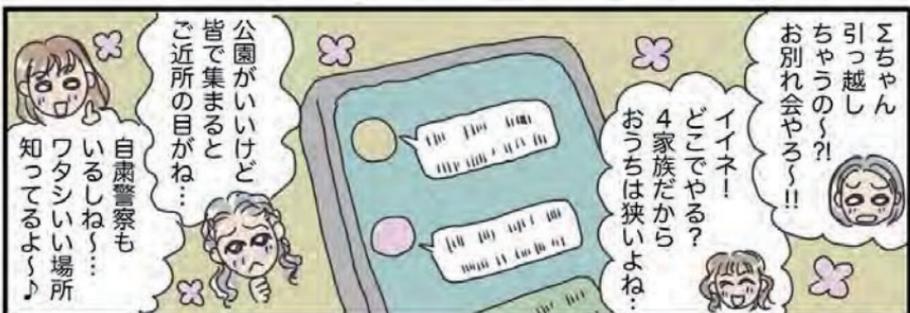
新たな遊び場の開拓

― 集会所・キッズルーム編 ―

屋外スペースだけでなく、室内の遊び場を新たに開拓していた事例もありました。これまではほとんど利用する機会のなかったというマンション内の「キッズルーム」を新たに利用したという家庭もありました。また、同じアパートの空き室を開放したという事例もありました。また、感染対策をしながら室内で集まれる場所として近隣の集会所なども挙がりました。こうした眠っていた空間資源を掘り起こして密を避けながら遊びの機会を担保しようとしていた状況が分かりました。



原状回復費...
修繕代... しょうがないか...



路地の価値

公園での遊具の使用禁止などによって、公園での遊びが憚られる中、自宅近くの路地、特に車の入ってこない幅員の狭い路地や一方通行、私道などを利用した遊んでいた家庭も多かったようです。

安全面の観点から、近隣の住民の方に注意された、という話も聞かれましたが、改めて、路地が子どもの遊び場のひとつの選択肢として役割を果たしていたことを再確認することができました。





公園の価値

今回、路地や緑地の価値も確認されましたが、同時に、車を気にせず思い切り走り回れる公園の価値は大きいことも再確認されました。

また、公園は、単に遊び場としてだけでなく、人と人が出会う場としても役割を持っていることも見えてきました。自宅を訪問できないなか、祖父母と落ち合う場として家長されたり、保育園時代の先生と交流する場となったり、都市の中のオープンスペースとしての本来の価値が浮彫になったように思います。







企画・制作・発行

日本大学理工学部建築学科井本研究室
井本佐保里・小山和輝・土川喬太

漫画制作

杵毛子「一級建築士」

twitter: @mochicco69

問合せ

東京都千代田区神田駿河台3の11の2
タワースクエア8階S815

WEBSITE <http://www.imoto-lab.com/>